



筑波大学
University of Tsukuba



筑波大學台灣校友會會刊
UNIVERSITY OF TSUKUBA
TAIWAN ALUMNI ASSOCIATION COMMUNICATIONS



筑波大學台灣校友會
UNIVERSITY OF TSUKUBA
TAIWAN ALUMNI ASSOCIATION
10672台北市大安區長興街81號
筑波大學台灣校友會秘書處
02-3366-9313

Contents 目次

会長挨拶

- 2 校友会会報の第10号発刊にあたって

筑波大学から

- 4 沿革

活動報告

- 6 筑波大学台湾校友会第10回總會報告
8 「学長を囲む会」 in Taiwan
10 第9回台湾人若手カフェ
12 「台日国立三校南部校友会」訪問

校友紹介

- 16 会報第10号へ寄せて：台湾から始まった今
22 筑波大学留学を起点とした
学術人生と日台交流

留学生だより

- 26 憧れから成長へ
28 懐かしの筑波

校友交流

- 30 校友の近況
32 親睦会

台湾オフィス報告

- 34 筑波大学台湾オフィス便り
36 筑波大学校友会規約
38 編集後記

會長的話

- 3 校友會會刊第十期 會長的話

筑波訊息

- 5 校史沿革

活動報告

- 7 筑波大學台灣校友會第十屆總會報告
9 第二回「校長座談會」 in Taiwan
11 第九屆台灣年輕人座談會
13 「台日國立三校南區校友會」參訪

校友寄語

- 17 會報第10期寄語：從台灣啟程的今天
23 以筑波大學留學為起點的
學術人生與日台交流

學生寄語

- 27 從憧憬到成長的留學之路
29 我會懷念的筑波

校友交流

- 31 校友近況
33 親睦會

台灣辦事處報告

- 35 筑波大學台灣辦事處
37 筑波大學台灣校友會章程
38 編輯後記

校友会会報の第10号発刊にあたって

文・筑波大学台湾校友会会長 郭威伯（2021年 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 農学学位プログラム博士卒業 / 崇越グループ (Topco Group) 顧問・安永バイオテクノロジー社長）

筑波大学台湾校友会会長の郭威伯です。過去数年、台湾の日常生活は新型コロナウイルスの蔓延により極めて大きな影響を受けた時期がありました。昨年の総会は3月8日に行われましたが、今年の第11回総会も永田学長および母校の先生方のご臨席の下で開催できることとなりました。台湾と日本は高市早苗首相の「台湾有事は日本有事」という関係、およびアメリカのトランプ大統領の対等関税が頼政府のリーダーシップによる関税15%、伝統産業も15%の実現に至ったことは、最大の喜びと言えます。

第10期台湾校友会会刊の従来同様の順調な刊行につきましても、尽力された皆様に無尽の感謝の意を表します。

2023年以降この3年間で対面での親睦会を開催し、多くの定例活動をオンラインや少人数の集まりに変更する必要がなくなりました。2016年2月20日に設立された筑波大学台湾校友会は、新しい方法を模索し、校友間の継続的な深い交流活動を励行しています。

改めて本校友会の設立目的が校友間の交流促進にあることを強調し、以下の点を再説明します。

(1) 筑波大学及びその前身となる学校に在籍した校友を対象としていること

筑波大学は1872年に東京高等師範学校としてその歴史が始まり、東京文科大学（1929年）、東京教育大学（1949年）を経て、1973年につくば市に本部キャンパスを移転して筑波大学となりました。本校友会は、このような筑波大学の歴史を踏まえ、

筑波大学およびその前身となるすべての大学・組織で勉学、経歴した校友の集う会を目指しています。

(2) 台湾在住の校友の方々を対象としていること

本会の幹事会にも、台湾人と日本人の校友に参加していただいています。国籍を問わず台湾に在住している校友同士が共に盛り上げていく校友会を目指しています。

(3) 校友同士の親睦及び台湾と日本との相互交流と友好発展に寄与すること

校友同士の懇親会、筑波大学と台湾の交流支援などを企画実施していきます。毎年発行する本会報もその一助となればと考えています。皆様の方で活動企画などありましたら、是非幹事会へご連絡ください。校友の皆様と情報共有するとともに協力して活動していきたいと考えています。

(4) これまでの校友活動に敬意を払うこと

本学の153年に亙る歴史の中で、様々な先輩・後輩の方々が、校友間の親睦や筑波大学との交流に貢献されてきました。このような活動に敬意を払い、また校友間でこれまでの活動を共有するためにも、本会報などに取り上げて行きたいと考えています。是非とも御寄稿ください。

台湾校友会の規程も本会刊に掲載していますので、会員の皆様はご確認ください。

皆様のご指導が本会の成長の力になります。ご意見は、私または幹事会へ直接お知らせください。改めて感謝申し上げます。



筑波大学台湾校友会 会長 2026年吉日

校友會會刊第十期 會長的話

文・筑波大學台灣校友會會長 郭威伯（2021年理工情報生命學術院 生命地球科學研究群 農學學位學程博士畢業 / 崇越集團顧問・安永生技董事長）



郭威伯

我是筑波大學台灣校友會會長郭威伯。過去幾年，台灣的日常生活因為新冠肺炎的蔓延有過一段受到極大影響的時期。去年總會，雖然延到3月8日舉辦，很幸運今年的第十一次總會，能夠迎接永田校長及母校老師們的蒞臨。隨著台日在高市早苗首相台灣有事就是日本有事，及美國川普總統的對等關稅，台灣有幸在賴政府領導下，終於能夠實現關稅15%不疊加，傳統產業也是15%，可說是最大的喜悅。

第十期的台灣校友會會刊一如往年能順利付梓，在此向盡力幫忙的各位，獻上無盡的感謝之意。

從2023年之後的這三年間，已經能夠舉辦實體的親睦會，很多例行的活動都不須改為線上或少數人聚會的方式舉行。於2016年2月20日成立的筑波大學台灣校友會，我們不斷尋求新的方式，勉力進行著校友間持續的深度交流活動。

再次借此機會重申本校友會的成立目的在於促進校友之間的交流，故以下幾點在此再度向大家說明：

1. 本校友會の入會資格，以筑波大學及前身大學校友為對象。

筑波大學始於1872年創校之東京高等師範學校，經歷了東京文科大学（1929年）、東京教育大學（1949年）的時代，於1973年把校本部移到筑波市，以此地為名而成立了筑波大學。故本校友會以此歷史的軌跡為本，以集合筑波大學及前身之所有大學之校友為目的而設立。

2. 不分國籍，以居住在台灣的校友為對象。

以本校友會的幹事會為例，台灣的校友

和日本的校友皆擔任幹部，不分國籍，一同為台灣校友會的活動盡心盡力，以融合不同國籍的校友為目的而設立。

3. 以增進校友間的感情，加強台灣與日本間相互的交流與發展為目的。

將策劃校友間的聯誼活動，並支援筑波大學與台灣之間的交流，本次發行之會刊，即為此目的而策劃，希望能對促進聯誼有所助益。諸位校友若有其他活動企劃的想法，也煩請跟幹事會聯絡。願校友們都能在共有共享的基礎上，互助合作，為本校友會的活動增添色彩。

4. 向歷來的校友會活動致敬

在母校154年悠久的歷史中，有些校友先進為校友活動貢獻良多，在此向歷來的校友會活動參與人員，致上最高的敬意與最深的感謝。為了與所有校友們分享校友會在此一年間的交流活動，我們每年將其編輯成冊，在此歡迎各位校友不吝惠賜稿件，在會刊的取材與內容方面，也歡迎隨時提供我們寶貴的意見。

另外，也將台灣校友會的章程附載於本會刊中，還請各位會員務必過目。

各位會員的賜教都將促進本會的成長，有任何意見都請直接與我或幹事會聯絡，再次謝謝各位。



筑波大學台灣校友會會長 2026年吉日

沿革

1872

● 5月29日、東京に師範学校設立。

1886

● 東京師範学校は高等師範学校と改称。



1893

● 嘉納治五郎、校長に就任。



1920

● 東京箱根間往復駅伝競走大会優勝
金栗四三が設立した、東京箱根間往復駅伝徒歩競争大会(現在の箱根駅伝)第1回で東京高等師範学校が初優勝を飾った。

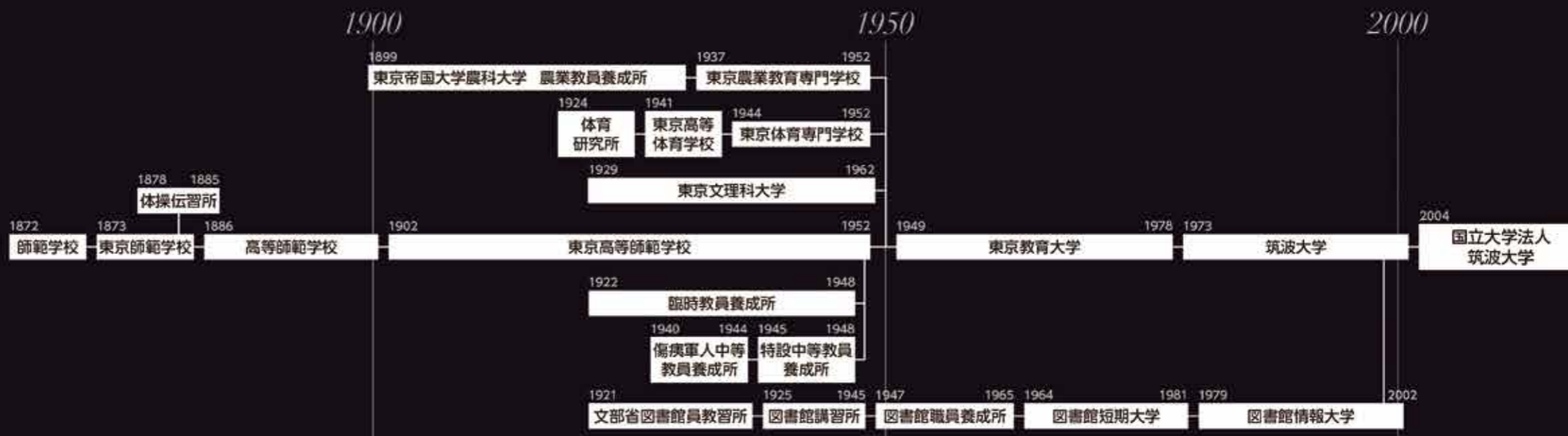


1929

● 東京文理科大学設置。



筑波大学の起源は1872年、日本初の教員養成機関として発足した「師範学校」にさかのぼります。それから101年、東京教育大学の移転を契機に、よき伝統と特色を生かしながらも、わが国ではじめて抜本的な大学改革を行い、1973(昭和48)年に「開かれた大学」を建学の理念に総合大学として発足しました。開学から40有余年、筑波大学は初心を忘れず、しかもつねに時代を先駆ける大学を目指して不断の改革を続けています。



1949

● 国立大学設置法(昭和24年法律第150号)により東京教育大学設置。



1956

● 朝永振一郎、学長に就任。
東京教育大学第2代学長。1965年、ノーベル物理学賞受賞。くりこみ理論の発明により、量子電気力学の発展に寄与。1969年、東京教育大学名誉教授に就任。



1973

● 国立学校設置法等の一部を改正する法律(昭和48年法律第103号)により筑波大学を設置。



1992

● 江崎玲於奈、学長に就任。
筑波大学第5代学長。1973年、ノーベル物理学賞受賞。現代のエレクトロニクスの基礎を担う半導体物理学分野の発展に寄与。1998年、筑波大学名誉教授に就任。



2004

● 国立大学法人法(平成15年法律第112号)により国立大学法人筑波大学を設置。

十年の継承、新たな展開へ： 筑波大学台湾校友会第10回総会報告

2025年3月8日、筑波大学台湾校友会第十回総会がハワードプラザホテル台北にて盛大に開催されました。世代を超えた校友たちが一堂に会し、校友会設立十周年という重要な節目を共に祝い、会は温かく熱気に満ちた雰囲気の中で円滑に執り行われました。

大会の冒頭では、邱若山会長と母校の永田学長よりご挨拶をいただき、校友たちの長年にわたる熱心な参加に感謝の意が述べられました。続いて行われた次期会長選挙にて、郭威伯氏が新たに台湾校友会会長に選出されました。郭新会長は就任の挨拶において、先輩方が築き上げた素晴らしい礎に感謝を述べるとともに、台湾校友会「南部分会」を正式に設立する計画を発表しました。この計画は、南部地域の校友との連携を強化することで、台湾全土のより広い範囲において筑波人が更に緊密に交流できるプラットフォームを提供することを目指しています。

また、好評を博している「今昔物語」では、今回は王欽彦氏と長田健宏氏のお二人をスピーカーとしてお招きしました。王氏は感性豊かで深い洞察に満ちた視点から、筑波大学から始まったご自身の人生の歩みと専門分野での発展を振り返られました。一方、若手校友の長田氏は生き生きとした多くの写真を通じた筑波留学時代の思い出深いエピソードやキャンパスライフの紹介など、活気溢れる内容でした。それらの報告は、出席した先輩方をタイムスリップしたかのような感覚にさせない、かつての宿舍生活の青春時代を思い起こさせるものでした。このような世代を超えた対話は、筑波精神が異なる年代の間で共鳴し、受け継がれていることを改めて示す機会となりました。

その後の懇親会には約70名の校友が参加し、会場のあちこちで近況報告や思い出話に花が咲き、笑い声と挨拶が絶えない賑やかな時間となりました。ベテラン校友による若手への助言から若手校友の熱意まで、校友会の強い結束力が遺憾なく発揮されました。

今回の活動にご参加いただいたすべての校友および関係者の皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご支持と情熱のおかげで、第十回総会を無事に終えることができました。今後は郭威伯会長の新体制のもと、南部分会の設立に向け、校友全員が手を携えて前進し、この大切な絆が未永く受け継がれていくことを期待しております。



十載傳承、開創新局： 筑波大學台灣校友會第十屆總會報告

2025年3月8日、筑波大學台灣校友會於台北福華大飯店隆重舉行第十屆總會活動。校友們跨越世代齊聚一堂，共同見證校友會邁入第十年的重要里程碑，活動在溫馨與熱烈的氣氛中圓滿落幕。

大會首由邱若山會長與母校永田校長致詞，感謝校友們長年來的熱情參與。隨後，大會順利完成下屆會長選舉，由郭威伯先生接任台灣校友會會長。郭會長在就職感言中，除了感謝前輩們奠定的優良基礎，更宣布台灣校友會計畫正式設立「南部分會」。此計畫旨在擴大服務版圖，加強與南部地區校友的連結，讓全台各地的筑波人都能擁有更緊密的交流平台。

另外，在深受好評的「今昔物語」分享環節，今年特別邀請到王欽彥先生與長田健宏先生兩位校友擔任講者。王欽彥先生以感性且深邃的視角，回顧了他於筑波大學緣起的人生篇章與專業領域的發展脈絡；而年輕校友長田健宏先生則帶來了充滿朝氣的分享，透過許多生動的照片，訴說在筑波留學期間的點滴趣事與校園生活，讓在座前輩們



彷彿走進時光隧道，重溫那段在宿舍的青春歲月。這種跨越世代的對話，展現了筑波精神在不同年代間的共鳴與傳承。

隨後，約 70 名校友參與了熱鬧的聯誼餐會，席間大家熱切交流彼此的近況與往事，歡笑與問候聲此起彼落。從資深前輩的提攜到青年校友的熱忱，校友會的凝聚力在這一時刻展露無遺。

感謝所有參與此次活動的校友及朋友們，正是因為有各位的支持與熱情，讓第十屆總會順利圓滿。展望未來，在郭威伯會長的帶領與南部分會的籌建下，我們期待全體校友繼續攜手並肩，讓這份珍貴的情誼在永續傳承。



第2回「学長を囲む会」 in Taiwan —— 企業との連携強化と学生との交流を促進

3月8日、筑波大学は第2回「学長を囲む会」 in台湾をハワードプラザホテル台北にて開催しました。永田恭介学長、金保安則大学執行役員（事業・リレーション担当）をはじめとする学内関係者約10名が出席し、台湾に拠点を持つ日系企業や現地企業から15社、計23名が参加しました。本会は、企業間のネットワークを深めるとともに、本学との産学連携の新たな可能性を探る貴重な場となりました。

「学長を囲む会」は、筑波大学が社会との連携を強化し、共創による社会貢献を推進することを目的に、2009年10月に日本国内でスタートしました。日本での学長を囲む会においては、現在では350社を超える企業・団体が参加する大規模なネットワークへと発展し、台湾での開催は前回に続き2回目となります。今回は、新たな試みとして国際連携食料科学専攻（GIP-TRIAD）の学生も参加し、企業との直接交流の機会を設けました。

会の冒頭では、永田学長より筑波大学の近況報告があり、続いて金保大学執行役員が本学の教育・研究の成果や「学長を囲む会」の理念について紹介しました。さらに、市川教授が国際連携食料科学専攻の取り組みを説明し、本学が進める国際的な教育・研究の枠組みを共有しました。

学長は講演の中で、「本会は皆さんが主役です。自由に交流し、新たなつながりを築いていただけることを嬉しく思います。また、本学の優秀な学生も参加していますので、ぜひ意見を交わし、互いに刺激を受けてください」と述べ、大学と企業との協働の重要性を強調しました。

本会は、参加者からも好評を博し、台湾における産学連携の新たなステップとなる有意義な機会となりました。筑波大学は今後も国際的な交流を一層深化させ、社会貢献とイノベーションの創出に向けた活動を続けていきます。



第二回「校長座談會」 in Taiwan —— 加強企業合作與促進學生交流

3月8日、筑波大學於台北福華大飯店舉辦了第2屆「校長座談會」 in台灣活動。永田恭介校長、負責事業與對外關係的金保安則大學執行董事等校內相關人員約10名出席，以及在台設有據點的日系企業及本地企業共15家公司，合計23位代表與會。本次活動成為加深企業間合作、探索與筑波大學之間產學合作上的寶貴契機。

「校長座談會」是筑波大學為了加強與社會的連結，推動共創與社會貢獻而於2009年10月在日本國內啟動的活動。至今已發展至超過350家企業與團體參與的大型規模，而本次在台舉辦則是第二屆。此次活動的新嘗試之一，是讓國際三校農業生技與健康醫療碩士學位學程（GIP-TRIAD）的學生共同參加，並安排他們與

企業進行面對面直接交流。會議一開始，由永田校長報告筑波大學的最新動向，接著金保執行董事介紹了本校的教育與研究成果，以及「校長座談會」的理念。另外，市川教授也介紹了國際三校農業生技與健康醫療碩士學位學程，並分享本校推動的國際教育與研究架構。

校長在致詞中表示：「本次活動的主角是各位！希望大家能自由交流，建立新的連結。很高興本校優秀的學生此次也在場參與，請大家多多交流意見，彼此互相激勵。」他強調了大學與企業合作的重要性。

本次活動獲得了與會者的高度評價，在台推進產學合作邁進了一大步。筑波大學今後將持續深化國際交流，並致力於社會貢獻與創新創造的推動。



第9回台湾人若手カフェ

文・筑波大学台湾留学生会 会長 劉承衛

第九回台湾若手カフェは、「学生自治」と「世代間のつながり」という精神に基づき、台湾留学生会と校友会による共同主催により2025年12月13日に開催されました。あわせて、在外公館（代表処）からの助成、ならびに本イベントにご協賛いただいた校友会に、特別の謝意を表します。

最初の発表者は卒業生の姚慕蠡氏でした。姚氏は、高エネルギー加速器研究機構の助理教授となるまでの歩みと心境の変化についてのお話です。この発表を通じて、聴講者は理工系の学術研究職の一つの進路像を理解することができました。発表後は、仕事の内容や研究分野、ならびに科学技術の発展に関する質問が多く寄せられました。

二番目の発表者は、博士課程二年の劉承衛さんでした。劉さんは現在進めている研究の一部をご紹介しました。本発表の主題は、戦後台湾の知識人である殷海光が経済的不平等をどのように論じたのかを分析し、殷海光の自由主義思想の一側面を明らかにするというものでした。発表後は、自由と平等の関係や、殷海光の経歴などについて質問が寄せられました。

第三の発表者は卒業生の趙耕穎氏です。建設業に従事する趙氏は、ご自身の就職活動の経験を踏まえ、収集・分析した特徴を紹介し、求人情報から企業の質や職場環境を見極める方法を後輩に伝えました。日本での就職を検討する学生にとって参考となる視点が示され、その後は就職活動や面接



において注意すべき点について質問が寄せられました。

第四の発表者は学部四年の周兆陽さんでした。心理学を専攻する周さんは、AIを心理学研究に応用した成果を紹介しました。周さんの研究では、ADHDの症候群における創造性に着目し、AIツールを用いてその創造性をより確認しやすい形で可視化することを試みていました。発表後は、心理学の他領域におけるAI活用の可能性や、研究内容の詳細について質問が寄せられました。

こうして台湾若手カフェは盛会のうちに終了しました。本座談会には各学年の学生に加え、留学生会顧問を務める先生方にもご参加いただきました。毎年の開催には関係各所の積極的な調整と協力が不可欠であり、人員・物資ともに限られる中で、留学生会としては第九回台湾若手カフェを成功裏に開催できたことを大変嬉しく思います。今後も、各地で活躍する卒業生や在校生の皆さまを継続的にお招きし、報告を通じて在校生と卒業生の交流と絆を受け継いでいければと考えております。最後に、本座談会の円滑な実施にご支援・ご協力を賜りました皆さまに、改めて御礼申し上げます。🍀



第九屆台灣年輕人座談會

文・筑波大學台灣留學生會 會長 劉承衛

第九屆台灣年輕人座談會於2025年12月13日順利舉辦，基於「學生自治」與「世代聯繫」之精神，本次座談會由台灣留學生會與校友會一同舉辦。此外，也特別感謝我國代表處的補助，以及向本次活動提供贊助的校友會。

第一位發表者為在筑波工作的姚慕蠡先生，他發表了其在成為高能加速器研究機構助理教授為止的心路歷程，透過此發表，讓我們了解到了理工類學術研究工作者的其中一種方向，在發表結束後，與會師生就工作內容與研究方向、科技發展熱烈提問。

第二位發表者為博士二年級的劉承衛，劉同學介紹了其正在進行的一部分研究。本次主題為透過分析戰後台灣知識分子的殷海光如何探討經濟不平等，來瞭解殷海光的自由主義思想的其中一面向。在發表後，就有關自由與平等、殷海光的經歷等提問給予解析。

第三位發表者為畢業生趙耕穎，目前任職於建設業的他透過自身的求職經歷，發表了他所蒐集並分析後的特徵，藉此來告訴各

位學弟妹們如何透過徵才資訊來判斷企業的產品與工作環境，給予了考慮在日本求職的同學們一個參考方向，並回答了在求職以及面試方面需要注意的事項。

第四位發表者為大學四年級的周兆陽，目前就讀心理學類的周同學在本次發表中介绍了其將AI應用到心理學研究上的成果。在周同學的研究中，他著重在ADHD症候群中的創造性，並透過AI工具來試圖將這種創造性以更容易確認的方式呈現出來，發表後，有同學詢問了AI在心理學其他領域中可能的運用方式以及更詳細的研究內容等等。

至此，台灣年輕人座談會圓滿結束。本次座談會仍能見到各年級的學生以及擔任留學生會顧問的師長前來參加。每年座談會的舉辦都需要各方積極地協調以及配合，在人力物力都有限的情況下，留學生會十分歡喜第九屆座談會能舉辦成功，今後的座談會希望能持續地邀請在各地活躍的畢業生以及在校生們來分享，並透過座談會來延續在校生與畢業生的情誼。最後，再次感謝各方人士的協助，讓座談會能圓滿成功。🍀

「台日国立三校南部校友會」訪問

文 ● Leadgene Biomedical 劉 宇帆 (2019年 体育系)

筑波大学台湾校友会の一員として、また本年度の幹事を務めさせていただいている立場として、今回の「台日国立三校・南部校友会合同参访活動」に参加できたことは、私にとって大変意義深い経験となりました。本イベントは、筑波大学台湾校友会の郭威伯会長のご引率のもと、張瑞雄副会長のご同行と企画調整をいただき、国立清華大学および国立屏東科技大学南部校友会の皆様との合同で実施されたものです。

当日は早朝に左營高鐵駅に集合し、和やかな雰囲気の中で一日の行程が始まりました。久しぶりに再会する校友同士が



近況を語り合い、世代や分野を越えた交流が自然と生まれていたことが印象的でした。

午前中は、郭威伯会長が創業・経営されている安永生技（彌陀工場）を訪問しました。郭会長自ら会社設立の背景、技



秀傳醫院

「台日國立三校南區校友會」參訪

文 ● 偉喬生醫 劉宇帆 (2019年 體育系)

身為筑波大學台灣校友會的一員，亦有幸於今年擔任校友會幹事，能夠親身參與並協助本次「台日國立三校南區校友會」的參訪行程，對我而言不僅是一趟豐富充實的產學與醫療交流之旅，更是一場凝聚校友情誼、世代傳承與跨領域對話的美好相聚。

本次行程由筑波大學台灣校友會郭威伯會長親自帶隊，張瑞雄副會長隨行規劃與協調，並與清華大學、屏東科技大學南區校友會共同參與。清晨自左營高鐵站集合出發，車程中便已感受到久未謀面的校友們彼此寒暄、分享近況的熱絡氣氛，為一整天的行程揭開溫暖序幕。

上午首站造訪由郭威伯會長所創立並領軍的安永生技彌陀廠。郭會長以一貫親切且深入淺出的方式，向校友們介紹公司成立的初衷、技術研發方向以及在再生醫療與生技產業中的實務經驗。從產線規劃到研發



理念，不僅展現企業的專業實力，也讓校友們看見筑波精神在台灣生技產業中落地實踐的具體樣貌，令人印象深刻。

午後行程來到高雄秀傳紀念醫院，承蒙吳明和院長親自接待，安排完整且精緻的簡報與導覽。從臨床醫療體系、先進設備到PRP血小板療法與外泌體相關研究的分享，讓校友們對醫療與生技之間的緊密結合有了更深一層的理解，也引發現場熱烈討論。吳院長不僅展現專業高度，更以溫厚的人文關懷精神，讓人感受到醫療工作的核心價值。

安永生技





術開発の方向性、そして再生医療分野における実務経験について丁寧に説明くださり、研究成果を社会実装へとつなげる姿勢に、多くの校友が深い感銘を受けました。筑波大学で培われた研究精神が、台湾のバイオ産業の現場で確かに息づいていることを実感する機会となりました。

午後は高雄秀伝記念病院を訪問し、呉明和院長にご接待いただきました。病院の先進的な医療体制や設備紹介に加え、PRP血小板療法およびエクソソーム関連研究についての講演も行われ、臨床医療とバイオテクノロジーの融合に対する理解が一層深まりました。専門性の高さだけでなく、人を中心に据えた医療理念が強く心に残りました。

夕刻には義守大学を訪れ、筑波大学台湾南部校友会会長でもある楊佩蓉教授（義守大学日本語学科）にご案内いただき、キャンパスを見学しました。

夜の懇親会では、古源光学長自らがお出迎えくださり、終始和やかで温かな雰囲気の中で、学術・産業・人生観に至るまで幅広い話題が交わされました。校友同士、また来賓との距離の近さこそが、大学校友会の大きな魅力であると改めて感じました。

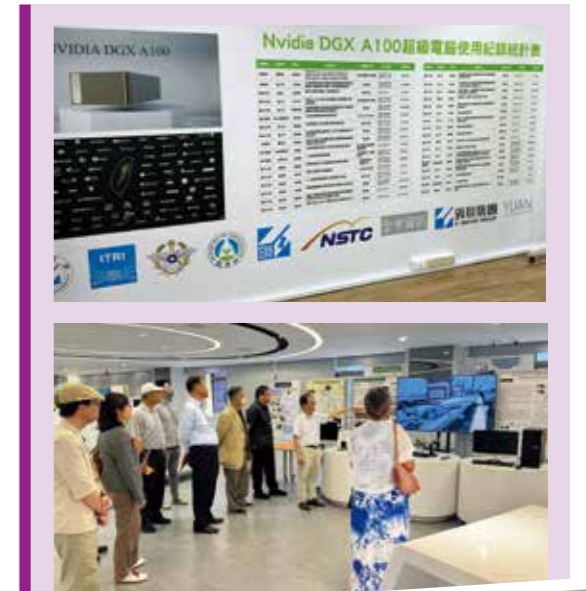
一日の行程を終え、帰路につく頃には名残惜しさと同時に大きな充実感を覚えました。今回の参観は単なる施設見学にとどまらず、筑波大学の精神を軸に、人と人、学術と社会をつなぐ貴重な交流の場であったと感じています。

最後に、本行程を企画・ご引率くださった郭威伯会長、張瑞雄副会長をはじめ、温かく迎えてくださった各訪問先の皆様、そしてご同行いただいた校友の皆様にご心より御礼申し上げます。今後もこのような交流を通じ、筑波大学校友ネットワークが台湾においてさらに発展していくことを願っています。

傍晚時分，車隊抵達義守大學，由義守大學應用日語系楊佩蓉教授——亦為筑波大學台灣南區校友會會長——熱情引導參訪校園。楊教授長期致力於台日學術與文化交流，對校友會的投入令人敬佩。晚間餐敘則由古源光校長親自接待，在輕鬆愉快的氣氛中，校友們暢談學術、產業與人生歷程，彼此交流毫無距離，充分展現大學校友網絡所獨有的溫度與深度。

夜色漸深，行程也在依依不捨中畫下句點。回程途中，我心中格外感慨：這不只是一場參訪，更是一段將「筑波連結」延伸至產業、醫療與教育現場的實踐。能與這麼多優秀的學長姐同行、交流，並共同見證校友在各領域的卓越表現，對我而言是極為珍貴的經驗。

謹以此文，感謝郭威伯會長、張瑞雄副會長的用心規劃，感謝所有接待單位與校友的熱情參與。也期待未來能有更多這樣的交流機會，讓筑波精神在台灣持續發光發熱，世代相傳。





会報第10号へ寄せて： 台湾から始まった今

講演者 ● 筑波大学 教育推進部教授 大庭良介
(筑波大学台湾オフィス初代所長 (2015年度～2018年度))

筑波大学台湾校友会会報が創刊10周年という大きな節目を迎えられたことに、心よりお祝い申し上げます。10年という歳月は、組織活動として見ればまだ若くもありますが、その間に積み重ねられてきた人と人との結びつき、世代や国境を越えた交流の広がり、決して短期間で成し得るものではありません。台湾校友会の歩みそのものが、筑波大学が掲げてきた「開かれた大学」「国際性」「学際性」という理念を体現してきた証であると感じています。

私自身、2015年から2018年にかけて筑波大学台湾オフィスの初代所長を務め、台湾を拠点に本学の国際連携と校友ネットワークの形成に深く関わってまいりました。その経験は、研究者として、また教育者としての私の歩みを大きく変えて方向づける

ものであり、現在の私の活動の原点となっています。本稿では、校友会会報第10号への祝意を込めつつ、私自身が関わっている台湾との連携の現在地、そして私自身の研究・教育活動の展開についてご報告申し上げます。

【帰国後の歩みと現在の活動】

台湾オフィス所長として過ごした2015年から2018年までの4年間は、私のアカデミア人生の中でも特に密度の濃い時期でした。台湾という多文化・多言語環境の中で、大学間連携を現場で調整し、学生や研究者、行政関係者、校友の方々と日常的に対話を重ねる経験は、研究室の中だけでは得られない視座を与えてくれました。国際連携とは制度設計だけでなく、信頼関係の積み重ねによって初め

會報第10期寄語：從台灣啟程的今天

講者 ● 筑波大学 教育推進部 教授 大庭良介
(筑波大学台湾辦公室首任所長 [2015年度～2018年度])

值此筑波大学台湾校友会會刊創刊十週年這一重要里程碑之際，謹致上由衷的祝賀。若以組織活動而言，十年還尚屬年輕，但在這段期間中所累積的人與人之間的連結，以及跨越世代與國界不間斷的交流擴展，絕非短時間可以成就的。台灣校友會一路走來的軌跡，正是展現了筑波大学多年來所堅持的「開放的大学」、「國際性」與「跨領域性」理念的最佳例證。

本人於2015年至2018年間擔任筑波大学台湾辦事處首任處長，以台灣為據點，深度參與本校的國際合作與校友網絡的建構。這段經驗不僅大幅改變並引導我作為研究者與教育者的生涯方向，也是我目前各項活動的原點。謹藉會刊第10期出刊之際致上祝賀，同時向各位報告我目前與台灣之間的合作現況，以及自身在研究與教育活動上的發展。

【歸國後的歷程與目前的活動】

2015年至2018年這四年擔任台灣辦事處處長的時期，是我學術生涯中密度極高的一段時間。在台灣這個多文化、多語言的環境中，親身於第一線協調大學間合作，並與學生、研究者、行政人員及校友們日常對話的經驗，為我帶來了單純處於研究室所無法獲得的視角。我也在這段期間深刻體會到，國際合作並非只靠制度設計便能運作，而是必須透過長期累積的信任關係，方能真正發揮作用。

自2019年回到日本之後，我雖然將研究與教育的據點重新移回日本，但我仍以在台灣建立的人脈為基礎，持續進行各項合作。2024年升任教授後，目前擔任「BPGI (Bachelor's Program in Global Issues) 地球規模課題學位學程」負責人，統籌此環境、健康、社會等複合性議題的大學部英語學程。同時，也以JV-Campus合作室長的身分，參與建構透過線上平台連結日本與海外大學的嶄新高等教育模式。

在教育方面，我以生命科學 (BPGI 地球規模課題學位學程、GIP-TRIAD 國際合作糧食健康科學專攻國際三聯碩士學位學程) 為基礎，同時也教授涵蓋漢方醫學 (醫療科學類)、方法論哲學 (BPGI)、科學技術



2025年12月に丸善出版より刊行された単行本『総合智への方法論』
2025年12月由丸善出版發行的專書《邁向綜合智的方法論》

て機能するものであることを、身をもって学んだ期間でもありました。

2019年に帰国して以降は、研究・教育の拠点を日本に戻しつつも、台湾で築いた人的ネットワークを基盤として、継続的な協働を意識して活動してきました。2024年に教授に昇任した現在は、地球規模課題学位プログラム（学士）のプログラムリーダーとして、環境、健康、社会といった複合的課題に向き合う教育を統括しています。また、JV-Campus連携室長として、日本と海外の大学をオンラインで結ぶ新しい高等教育の仕組みづくりにも携わっています。

教育面では、生命科学（地球規模課題学位プログラム、国際連携食料健康科学専攻）を基盤としつつ、漢方医学（医療科学類）、方法論哲学（地球規模課題学位プログラム）、科学技術社会論（医学学位プログラム）など、従来の学問分野の枠を越えた領域横断的な科目を担当しています。

研究面では、若い頃から取り組んできた細菌学を離れ、科学計量学や方法論哲学といった、科学そのものを対象化する研究へと大きく舵を切りました。科学計量学の研究成果はメディアでも多数紹介され、また方法論哲学の分野では単行本の出版に至りました。学内では「健康情報総合学」という研究室を主宰し、知と社会、身体と情報を横断する新たな研究の場を育てています。

台湾との連携活動

——教育・研究・文化の多層的展開

台湾との連携は、台湾オフィス時代に築いた基盤の上に、教育・研究・文化という複数の層を重ねる形で発展してきました。

単一のプロジェクトにとどまらず、異なる形式の取り組みが相互に響き合うことで、持続的な関係性が育まれている点に、大きな意義を感じています。例えば、国立台湾大学との国際連携食料健康科学専攻です。本プログラムは、国立台湾大学、ボルドー大学、筑波大学による修士課程のジョイントディグリーであり、すでに9期生までを数えるに至りました。毎年、各大学から3名から5名の学生が集い、学際的かつ国際的な学修環境の中で切磋琢磨しています。今年度も校友会懇親会に在学学生が参加しており、世代と国境を越えたつながりが着実に育っていることを実感しています。

また、国立成功大学とはオンライン教育を軸とした連携を進めています。JV-Campusと国立成功大学双方のプラットフォームを活用し、「デザイン思考」や「氣功」といった特色ある授業を共同で制作・公開してきました。さらに、医学学位プログラムでは、「医学における科学技術社会論」の1単位分のオンライン授業も共同開催し、デジタル技術を活用した新しい国際教育の形を模索しています。

地球規模課題学位プログラムにおいては、成功大学との多文化共修も進行中です。2026年2月には1週間の集中プログラムを予定しており、筑波大学から16名の学生が参加します。短期間ながら、異なる文化・価値観に身を置きながら学ぶ経験は、学生にとって大きな転機となるでしょう。

個人的な活動として、教育や研究に加えて、文化的・思想的な交流の場として特に重要な意味を持っているのが、国立成功大学における共同展示の取り組みです。

2025年9月から2026年3月にかけて、成功



『型心身一如 臺日協作展』 写真提供：国立成功大学博物館

『型心身一如 臺日協作展』 照片由國立成功大學博物館提供

與社會（醫學學位學程）等跨越既有學門框架的跨領域課程。

在研究方面，我離開了年輕時長期投入的細菌學研究，轉而大幅調整研究方向，致力於以科學本身為研究對象的科學計量學與方法論哲學。相關研究成果多次受媒體關注，在方法論哲學領域，也已出版專書。在校內，我把研究室取名為「健康情報總合學」研究室，致力於培育一個橫跨知識與社會、身體與資訊的全新研究場域。

與台灣的合作

——教育、研究、文化的多層次發展

與台灣的合作，是在台灣辦事處時期所建立的基礎之上，進一步加上教育、研究與文化等多個層次並持續發展。這些不同形式的計畫彼此呼應、相互激盪，孕育出具延續性的關係，我對此深感意義重大。

其中一例便是與國立台灣大學共同推動的「GIP-TRIAD國際合作糧食健康科學專攻 國際三聯碩士學位學程」。該學程為台灣大學、波爾多大學與筑波大學三校合

作的碩士聯合學位，目前已培育至第9屆學生。每年由各校考選3至5名學生，在跨領域且國際化的學習環境中相互切磋。今年度此學程的在學學生也會參與台灣校友會的活動，切身感受到跨越世代與國界的連結正穩健持續成長。

此外，與國立成功大學則以線上教育為核心推進合作。我們善用JV-Campus與成功大學雙方的平台，共同製作並公開了「設計思考」、「氣功」等具特色的課程。在醫學學位學程中，也共同舉辦了「醫學中的科學技術社會論」一學分的線上課程，探索運用數位技術的新型國際教育形式。

在BPGI地球規模課題學位學程中，與成功大學的多文化共修也正在進行。預計於2026年2月舉辦為期一週的密集課程，將有16名筑波大學學生參與。即便時間不長，能在不同文化與價值觀中學習，對學生而言必將成為重要的轉捩點。

在個人層面上，除教育與研究之外，對我而言特別具有文化與思想交流意義的，是在成功大學所進行的共同展覽計畫。

大学書店にて、私の著作『「型」の再考』（京都大学出版会、2021年）を起点とした企画展「成大博物館『型 心身一如 臺日協作展』」が開催されています。本展示は、筑波大学OGであり、現在は成功大学博物館の副研究員として活躍されている陳佳欣氏が主導し、日台協働の形で実現しました。

展示では、「型」という概念を通じて、心と身体、理論と実践、東洋と西洋の知を架橋する試みがなされています。2026年2月25日には、私自身も展示会場にて講演を行い、研究の背景や問題意識を直接共有する機会を得ました。さらに、2026年10月には同内容の展示を筑波大学附属図書館でも開催予定であり、台湾で生まれた知的対話を再び筑波へと還流させる試みとなります。

研究成果としての新著

——総合智への方法論

以上のような国際連携や教育実践を支えている基盤には、私自身の研究として積み重ねてきた方法論的探究があります。その到達点として、2025年12月に丸善出版より刊行された単行本『総合智への方法論』があります。本書では、科学とスピリチュアル、西洋思想と東洋思想といった、近代以降対立的に捉えられてきた知の体系を、同じ地平で扱うための方法論を提示しました。

トーマス・カスリスの「インテグリティ」と「インティマシー」という概念を手がかりに、それらを「対象」と「関係」という認識形式として再定義し、そこから「科学的方法」「人文的方法」「型的方法」「調律的方法」という四つの汎用的方法論を導き出しています。前作『「型」の再考』を踏まえ



左から：筑波大学台湾オフィス 林佳瑤、キュレーター 成大博物館 副研究員 陳佳欣先生

左起：筑波大學台灣辦事處 林佳瑤、策展人 成大博物館 副研究員 陳佳欣老師

つつ、認識形式論という哲学的メタ視点から、人類が今後持つべき視点と方法論を総合的に論じた一冊です。

私自身、この著作を、研究者としての最初の一步目を実感させてくれる基本書と位置づけています。学術的な学会や研究会にとどまらず、企業や団体のセミナーにも招かれるようになり、知の方法論が社会と接続しうる手応えを感じています。

【おわりに】

台湾オフィス初代所長としての経験、帰国後の研究・教育活動、そして現在進行形の国際連携や著作活動を振り返ると、一貫して私の関心の中心にあったのは、「知はかかにして人と人、人と場、場と場を結び、社会と接続し、相互に往還しうるのか」という問いでした。筑波大学校友会が10年の歩みの中で築いてきたネットワークも、まさにその実践にほかなりません。次の10年に向けて、校友会がさらに多様な知と人を結び、新たな価値を生み出していくことを心より願っております。

自2025年9月至2026年3月，在成功大學書店舉辦了以我著作《「型」的再思考》（京都大學出版會，2021年）為起點的企画展「成大博物館『型 心身一如 臺日協作展』」。本展由筑波大學校友、現任成功大學博物館副研究員的陳佳欣老師主導，以台日協作的形式實現。

展覽透過「型」這一概念，嘗試連結心與身、理論與實踐、東方與西方的知識體系。2026年2月25日，我也親自在展場進行演講，直接分享研究背景與問題意識。此舉亦可視為讓誕生於臺灣的知性對話，再次回流至筑波的一項嘗試。

作為研究成果的新著

——邁向「綜合智」的方法論

如前所述，支撐上述國際合作與教育實踐的基礎，在於我自身長年累積的研究與方法論探究。其階段性成果，便是於2025年12月由丸善出版發行的專書《邁向綜合智的方法論》。本書提出一套方法論，旨在將近代以來常被視為對立的知識體系——例如科學與靈性、西方思想與東方思想——置於同一地平線上加以討論。

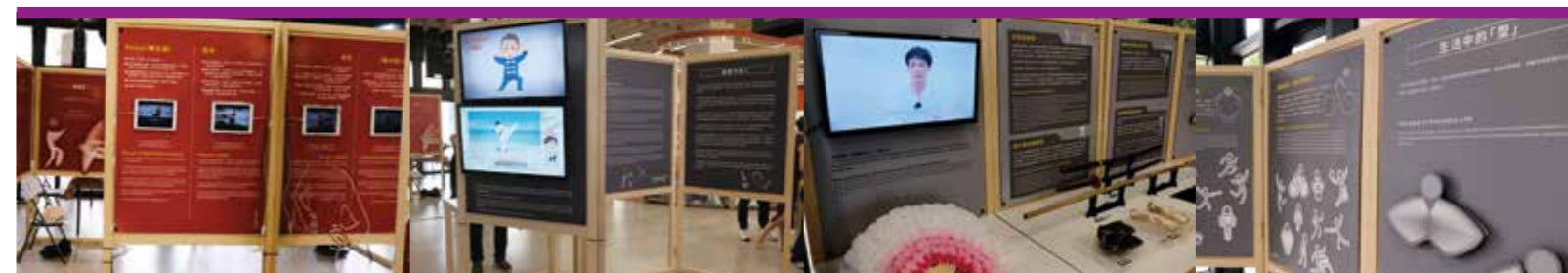
本書以托馬斯·卡斯里斯（Thomas Kasulis）提出的「整全性」與「親密性」概念為線索，將其重新定義為「對

象」與「關係」兩種認識形式，並由此導出「科學的方法」、「人文學的方法」、「型的方法」以及「調律的方法」四種具高度通用性的方法論。在前作《「型」的再思考》的基礎上，本書從認識形式論這一哲學性的後設視角出發，綜合論述人類未來應持有的視野與方法論，是一部具有整體思想架構的著作。

我個人將這部著作定位為讓我切實感受身為研究者邁出第一步的基礎著作。除了學術學會與研究會之外，也開始受邀至企業與團體的研討會進行演講，從中我實質感受到『知識的方法論』確實能與社會產生連結。

【結語】

回顧擔任台灣辦事處首任處長的經驗、回國後的研究與教育活動，以及目前進行中的國際合作與寫作活動，我始終貫徹如一的核心關懷在於：「知識如何連結人與人、人與場域、場域與場域，並與社會接軌，進而實現相互的往返與對話？」筑波大學校友會在過去十年的歷程中所建立的網絡，也正是這一理念的實踐。展望下一個十年，衷心祝願校友會能進一步連結更多樣化的知識與人才，創造出新的價值。



『型 心身一如 臺日協作展』 写真提供：国立成功大学博物館

『型 心身一如 臺日協作展』 照片由國立成功大學博物館提供

筑波大学留学を起点とした 学術人生と日台交流

文 ● 筑波大学台湾校友会 副会長 張瑞雄
(1993年 社会科学研究科 社会学専攻 博士学位取得 /
 万十科技股份有限公司 代表取締役会長・
 一般社団法人 台日経貿文化交流協会 名誉理事長)

私は淡江大学日本語文学科を卒業後（1981年）、国泰人寿に就職しました。安定した仕事ではありましたが、そこで自身の志向を見つめ直し、28歳の時に思い切ってゼロから日本に留学する決意をしました。1986年に筑波大学に入学した後は、産業社会学という学際的研究分野に方向転換し、短期間で研究基盤を再構築しました。大学時代に培った自主学習能力を活かし、無事に大学院博士課程の入試に合格し、学術研究の道を歩み始めました。

博士課程在学中には、筑波大学国際学友会（TISA）の会長を務め、世界各国からの留学生や日本の国際交流団体との交流を積極的に行いました。高度に国際化された研究環境で培った国際的視野と人的ネットワークは、後の東アジア比較研究や日台交流推進の重要な基盤となりました。

1993年に筑波大学博士号を取得後、母校淡江大学に戻り教鞭を執り、日本語文学科主任や日本研究所所長を歴任しました。2000年に故郷高雄に移住し、国立高雄第一科技大学にて、国立大学で初となる日本研究所修士課程を設立しました。さらに2002年には「台湾応用日本語学会」を創



設し、南台湾地域の日本研究と専門人材育成に尽力しました。同学会は2022年に日本外務大臣表彰を受け、長年にわたる日台交流の成果を示すものとなりました。

教職生活の中で、約50名の修士・博士論文指導を行い、多くの学生が産・官・学各界で活躍する姿を見届け、深い喜びを感じています。退職後（簡任14職等）も日台交流活動に注力し、社団法人「台日経貿文化交流協会」を設立。現在は万十科技股份有限公司の董事長として、IT分野を中心に日台産業協力や次世代人材育成に取り組んでいます。

40年前の留学時代を振り返ると、情報や資源が限られ、経済的負担も大きい時期でした。幸い、日本台湾交流協会奨学金やロータリー米山記念奨学金の支援、そして日本の友人たちの温かい協力により、学業を無事に修了できました。指導教官である筑波大学名誉教授 佐藤守弘 先生の厳しくも温かな指導は、研究姿勢のみならず人生観にも大きな影響を与え、今日まで私の糧となっています。

この経験を通して、筑波大学で築かれた「校友ネットワーク」が、留学後の人生やキャリア形成においてかけがえのない価値

以筑波大學留學為起點的 學術人生與台日交流

文 ● 筑波大學台灣校友會 副會長 張瑞雄
(1993年 社会科学研究科 社会学専攻 博士畢業 /
 万十科技股份有限公司 董事長 /
 社團法人 台日經貿文化交流協會 榮譽理事長)

我畢業於淡江大學日本語文學系（1981年），於踏入社會後雖曾任職於國泰人壽穩定的工作，仍在反思自我志向後，於28歲毅然決定重新歸零赴日留學。1986年進入筑波大學後，轉向產業社會學這一跨領域研究方向，並在短時間內重新建構研究基礎。憑藉大學時期所培養的自學能力，順利通過研究所博士課程入學考試，正式踏上學術研究之路。

博士課程期間，我曾擔任筑波大學國際學友會（TISA）會長，積極與來自世界各

地的留學生以及日本的國際交流團體互動交流。在高度國際化的研究環境中所培養的國際視野與人際網絡，成為日後從事東亞比較研究與推動台日交流的重要基石。

1993年取得筑波大學博士學位後，返回母校淡江大學任教，歷任日本語文學系主任及日本研究所所長。2000年移居故鄉高雄，於國立高雄第一科技大學創設國立大學第一個日本研究所碩士班，並於2002年成立「台灣應用日語學會」，致力推動南臺灣地區的日語研究與專業人才培育。該學



指導教授 佐藤守弘
指導教授 佐藤守弘



佐藤守弘教授ご夫婦と私
佐藤守弘教授夫婦與我



筑波大学平砂学生宿舍
筑波大學平砂學生宿舍

を持つことを実感しています。筑波大学は単なる留学の思い出ではなく、国際交流を生涯にわたり繋ぐ重要なプラットフォームです。

筑波大学台湾校友会の使命は、校友の力を結集し、互いの連携を促進するとともに、母校・日本社会・台湾の産官学界を結ぶ架け橋となることです。今後も校友会を通じ、後輩支援、国際化教育、学術・産業交流をさらに深化させてまいります。

最後に、後輩諸君への期待として一言申し上げます。留学は単に学位を取得することではなく、視野・人脈・信頼を長期的に積み上げる人生の旅です。一期一会の機会を大切に、「利他即利己」の精神で誠実に人と向き合い、困難を共に乗り越えられる仲間を心を尽くして見つけてください。未来が不確実に満ちた人生100年時代において、終生学び続け、積極的に挑戦する姿勢こそが最も重要です。努力と選択の積み重ねは、必ずや未来の人生にとって最も大切な糧となります。



Boys, Be Ambitious

少年よ、大志を抱け！

筑波大学での学びを起点に、自らの可能性を信じ、新しい価値を創造し、かけがえない人生を切り拓かれることを願っています。

「今日私が筑波を誇りに思い、明日筑波が私を誇りに思う」という共通のビジョンを共に創りましょう。



會於2022年榮獲日本外務大臣表彰，這是長年深耕台日交流所累積的重要成果。

在教學生涯中，我指導約50位碩、博士論文，眾多學生於產、官、學各界發揮所長，深感欣慰。退休後（簡任14職等），仍持續投入台日交流工作，成立社團法人「台日經貿文化交流協會」，目前並擔任萬十科技股份有限公司董事長，聚焦於IT領域，推動台日產業合作與次世代人才培育。

回顧40年前的留學時代，當時正值資訊與資源相對匱乏、經濟負擔沉重的年代。所幸承蒙日本台灣交流協會獎學金及扶輪米山紀念獎學金的支持，以及日本友人的溫暖協助，方能順利完成學業。其中，指導教授——筑波大學名譽教授佐藤守弘先生——以嚴謹而溫厚的教誨，不僅深刻影響我的研究態度，也塑造了我的人生觀，至今受益良多。

正是在這樣的歷程中，我深切體會到在筑波大學所建立的「校友網絡」，對留學後的人生發展與職涯形成具有不可取代的價值。筑波大學不僅是一段留學回憶，更是一個能夠終身串聯國際交流的重要平台。

筑波大學台灣校友會的使命，在於凝聚校友力量、促進彼此連結，並作為連結母校、日本社會與臺灣產官學界的重要橋樑。未來，我們也將持續透過校友會的運作，深化後輩支持、推動國際化教育、學術與產業交流。

最後，謹向後輩學弟妹們分享一點期許：留學不只是取得學位，更是一段長期累積視野、人脈與信任的人生旅程。請珍惜每一次「一期一會」，秉持「利他即利己」的精神，真誠待人，用心結交能共度患難的夥伴。面對未來充滿不確定性的人生100年時代，正因如此，唯有終身持續學習、以積極態度勇於挑戰！努力與選擇的累積，終將成為你未來人生最重要的養分。

Boys, Be Ambitious

少年啊，胸懷大志吧！

願各位以筑波大學的學習為起點，相信自己潛能，開創新價值，走出屬於自己的精彩人生。

共創「今日我以筑波為榮，明日筑波以我為榮」的共同願景！



昨年、張副会長はわざわざ一週間の時間を割いて、本学新設のマレーシア分校のDamaso先生の台湾訪問の同行および通訳をお引き受けくださり、南部の11校の高校を訪問されました。その間、連絡調整や日程手配に加え、同窓生および教育交流への熱意と細やかなお心遣いを示してくださいました。ここに、張副会長に心より感謝申し上げます。

去年，張副會長特別撥出整週的時間，陪同來台的本校新創立的馬來西亞分校的Damaso老師，前往南部11所高中進行參觀與訪問。在此期間，他不僅協助聯絡與安排行程，更展現了對校友及教育交流的熱心支持與細心投入。在此向張副會長致上誠摯的感謝。

憧れから成長へ

文・周兆陽（人間学群 心理学四年）

高校時代の自分に戻ったら、自分が大学生活を筑波大学で送ることになるとは到底信じられないでしょう。海外で一人で学び、生活することは、当時の自分にとって、まるで白昼夢のような憧れでした。2021年9月、ついに日本の地に降り立ち、日本語学校で半年間準備をしました。そして2022年4月に念願叶って筑波大学に入学し、現在まもなく4年目を迎えます。

平凡な家庭に生まれた自分にとって、留学は金銭面からして容易ではありませんでした。しかし、日本台湾交流協会の奨学金に合格できたおかげで、両親に重い経済的負担をかけずに、無事に海外留学を実現できたことを大変幸運に思っています。日本留学を決意したのは比較的遅い時期で、実際に先生にお願いして口語練習や作文添削を始めたのは高校2年の後期でした。同時に、学測（大学入試）を予備の対策として準備していました。自分の日本語力が短期間で大きく伸びた背景には、小学校から好きだったアニメやドラマなどの積み重ねが大きく寄与していますし、日本での生活に憧れる気持ちもここから来ています。

海外での留学生活は、一見華やかに見えます。海外の美味しい料理を楽しめたり、多言語で志を同じくする友人を作れたり、親の干渉を気にせず自由に遊べるなど、留学という言葉から浮かぶイメージそのものです。しかし、その華やかさの裏には、人知れず努力し続ける日々があります。母語

話者には及ばない日本語力のもどかしさ、友達ができるかどうかの不安、異なる環境への適応、言語の違いによって以前と同じ効率で学習できないこと、一人暮らしのさまざまな雑事や収入源の確保など、考えればきりがありません。

しかし、筑波で体験したこうした酸いも甘いも含む日々があったからこそ、私はより強くなり、自信と前に進む達成感を得ることができました。

私の筑波での専攻は心理学で、自分の「人と関わることが好き」という特性にも合致しています。日本の国立大学で学士課程の独立した心理学科は非常に少なく、大阪大学と筑波大学のみが選択肢でした。また、筑波大学のカリキュラムは、神経心理学、認知心理学、犯罪心理学など、他大学では学べない多様な分野を含んでおり、最終的に筑波大学を選びました。心理学は深くて面白い学問で、哲学的起源を持ちながらも現代科学の実証的方法に重きを置き、教育学や経済学など他分野とも密接に関わっています。現在、学問の広さと難しさの両方を楽しみながら、時には苦しみも感じています（笑）。

課外活動では、オーケストラや学内無料刊行物のサークルに参加し、志を同じくする日本人の友人たちと出会いました。また、留学生としての立場を活かし、他国からの留学生とも知り合い、英語の会話力も向上しました。本当に感謝しています。日本人も他国の留学生も、それぞれのバックグラウンド

從憧憬到成長的留學之路

文・周兆陽（人間学群 心理學類四年）

如果能回到高中，我應該不會相信自己的大學生活會在筑波大學度過。在國外一個人求學及生活，對於當時的自己來說只是白日夢般的嚮往。2021年9月，我踏上了日本的土地，經過語言學校半年的備考期間後，2022年4月如願進入筑波大學就讀，現在即將邁入第四年。留學對於生在平凡家庭中的自己來說，光是金錢面就不是很容易。不過，非常慶幸自己考上了日台交流協會的獎學金，得以不讓爸媽負擔沉重經濟壓力，順利出國留學。我下定決心去日本留學的時期相當晚，真正開始請老師幫忙練習口說及批改作文已是高二下學期，同時也有準備了學測當成備案。自己的日文之所以能在短時間內大幅進步，從國小就迷上的動畫及日劇等等的累積絕對是功不可沒，嚮往日本生活的憧憬也出於此。

在國外的留學生活看似光鮮亮麗：能輕鬆品嚐國外美食、用多語言結交志同道合的新朋友、不用怕家長撈叨的說走就走玩樂行程等等，都是大家說到留學會浮現的印象。但在那光鮮亮麗的背後，往往是不為人知的耕耘付出。竭盡全力提升的日語能力終究劣於母語人士的無力感、是否能交到朋友的不安、適應不同的環境、因語言不同需要花更多時間才能達到以往效率的學習內容、一個人



活的各項瑣事及收入來源等等，需要花更多心力來完成的事情不勝枚舉。然而，正因為這些在筑波體驗到的酸甜苦辣，我才能蛻變為更加堅韌的自己，捨得自信與向前邁進的成就感。

我在筑波的專攻是心理學，剛好反映了自己喜歡與人相處的特質。日本國立大學大學部（學士）的獨立心理學系非常稀少，當時只有大阪大學及筑波大學可以選擇。此外，筑波大學的課程涵蓋了其他大學難以比擬的多樣領域（例：神經心理、認知心理、犯罪心理等等）因此最後選擇在筑波大學就讀。心理學是門深奧有趣的學問，擁有自哲學起源的背景，同時又注重現代科學方法的實證性，且跟其他各大領域（例：教育學、經濟學等等）都有密切關係。現在正在同時體會學海無涯的快樂以及痛苦（笑）

課餘時間我參加了管弦樂團及發行校內免費刊物的社團，認識了一些志同道合日本朋友。同時，也利用了留學生這個身

やここに来た理由は様々で、彼らの体験を聞くことは、自分を刺激し前進させる最高のきっかけになります。時には「なるほど、こうすればいいんだ!」「すごい!」と思うこともあれば、「自分はダメだ…」「ああ、あの時こうすれば…」と後悔することもあります。しかし、こうした新しい刺激や挑戦があったからこそ、私は今の自分になりました。

このような恵まれた環境で大学の4年間を過ごせることは、ひとえに周りの方々の支えにだと、心から感謝しています。そして、当初台湾のコンフォートゾーンを迷わず離れる決断をした自分を誇りに思います。これらは私の筑波大学でのほんの一部の経験にすぎませんが、ここまで読んでいただけるととても幸せです。

懐かしの筑波

文 ● 王威勝 (理工情報生命学術院 数理物質科学研究群 国際マテリアルズイノベーション学位プログラム)

私は現在、筑波大学の博士課程3年 (D3) に在籍しており、主に材料科学にAIや自動化を組み合わせた研究に取り組んでいます。人生は思いがけない転機に満ちています。最初はコロナの影響で台湾でのビザ待ち期間が予想以上に長くかかりましたが、修士課程から博士課程へと進む中で、気付けば日本での生活もうすぐ4年になります。

私の研究室はNIMS (物質・材料研究機構) にあるため、普段はキャンパス内で活動することは多くありません。しかし、一の矢宿舎に住んでいるため、研究室に通うにはキャンパスを横断する必要があります。この毎日が、筑波の四季を肌で感じる貴重な体験となりました。春にはキャンパスの道沿いに咲き誇る桜が続き、つい足取りもゆっくりになります。秋になると銀杏が黄葉し、キャンパスの道全体が温かい金色に染まり、見慣れた景色がいつのまにか変化していることに気づきます。

都会育ちの私にとって、こうした体験は格別に貴重です。気温の変化だけでなく、視覚に映る季節の風景、夏の夜に響く虫の声、さらには季節ごとに変わる空気の中のほのかな花の香りなど、さまざまな感覚が積み重なっています。自炊を始めてからは、スーパーに並ぶ食材にも季節の移ろいを感じるようになりました。

最初は不安や戸惑いもありましたが、次第にこの生活リズムに慣れていきました。そして、卒業してここを離れる時、桜や銀杏の間で積み重なった日常の風景は、私にとって最も深く最も優しい思い出になることでしょう。

もしこれから日本で学んだり研究したり、あるいは静かで自然豊かな場所で過ごしてみたいと考えている方がいれば、筑波を心からおすすめします。賑やかではないかもしれませんが、だからこそ、ゆっくり歩き、ゆっくり眺め、自分自身のペースを見つけることができる場所です。

份の優勢也認識了不少來自其他國家的留學生，讓我的英語口說不減反增，真的非常感謝他們。無論是日本人還是來自其他國家的留學生，大家都有各自的背景及來到這裡的理由，聆聽他們的體驗便是刺激自己前進的最佳催化劑。有時會心生「原來這樣做也可以!」「他好厲害!」之類的心聲，但也會有「哇!我好廢!」「早

知道就…」的後悔，不過正是因為有這些新的刺激及放膽嘗試，我才會成為現在的自己。能在如此奢侈的環境中度過大學四年，對身邊貴人的感謝真的是說也說不完，同時也慶幸自己當初毅然決然離開台灣舒適圈的決定。這些只是我的一些在筑波大學的經歷，不足為道，但若能讓您讀到這裡，我真的非常有幸。

我會懷念的筑波

文 ● 王威勝 (Master's and Doctoral Program in Materials Innovation)

我目前是筑波大學博士班三年級的學生，主要從事材料科學結合AI與自動化的研究。人生往往充滿意想不到的轉折，儘管一開始因疫情影響，在台灣等待簽證的時間比預期更久，但從碩士到博士，回過神來，我已經在日本生活了將近四年。

由於我的實驗室位於NIMS，平時並非常在校內活動，但因為居住在一之矢宿舎的關係，每天通勤時都必須橫跨整個筑波校園。也正是這段日復一日的路程，讓我得以完整感受筑波的春夏秋冬。春天時，校園裡盛開的櫻花沿著道路綿延，通勤的腳步也不自覺慢了下來；到了秋天，銀杏逐漸轉黃，整條校園道路被染上一層溫暖的金色，原本熟悉的風景在不知不覺中換了模樣。

這樣的體驗，對從小生活在都市中的我格外珍貴。它不只是氣溫的變化，而是來自各種感官的累積，視野中的季節景色、夏夜裡此起彼落的蟲鳴、甚至是不同季節空氣中淡淡的花香。隨著開始自己下廚的關係，也逐



漸注意到超市裡食材所反映出的四季更迭。

從最初的徬徨不安，到習慣這裡的生活節奏。等到我真正畢業、離開這裡之後，這些在櫻花與銀杏之間累積起來的日常風景，想必都會成為我心中最深刻、也最溫柔的回憶。若有人正在考慮來日本求學、研究，或只是想一個安靜卻富有自然氣息的地方生活一段時間，我會真心推薦筑波——這裡或許不喧鬧，但正因如此，才能讓人慢慢走、慢慢看，也慢慢找到屬於自己的節奏。

校友の近況 (敬称略)

恭賀
おめでとうございます
祝



校友 王欽彦

現任
国家環境研究院 上席環境技師
國家環境研究院 高級環境技術師



校友 戴貽霏

現任
コスモテキスタイル株式会社素材企画・海外営業兼アーティスト
Cosmo 紡織股份有限公司素材企劃 國際業務兼自由藝術家



校友 李士哇

恭賀榮升
工業技術研究院 中分院 CEO
工業技術研究院 中分院 執行長



校友 莊坤遠

現任
中台科技大学 環境與安全衛生工程系 副教授
中臺科技大學 環境與安全衛生工程系 副教授

校友近況



校友 笹沼俊暁

恭賀榮升
東海大学 日本語文化学系 教授
東海大學 日本語文化學系 教授



校友 廖修平

現任
国立台湾師範大学 講座教授
國立臺灣師範大學 講座教授



校友左起：曾玉華、林華韋、陳全壽、邱玟惠

2025年10月、雲林県で開催された第114回全国運動会に
参加した4名の校友
四位校友参加2025年10月在雲林縣舉辦的114年全國運動會

校友 楊佩蓉

現任
義守大学 応用日本語学科 主任 兼 日本研究センター主任
義守大學 應用日語學系 主任兼日本研究中心主任



北部親睦會

2025年は台北市内で3月、7月（2回）、9月に計4回の親睦会が行われました。3月は日本に帰任となった山本さん（日本航空）、9月にご主人のお仕事でオーストラリアに移住する北岡さんの壮行会も兼ね、そして7月の1回は大庭先生を囲んでの和やかな会となりました。

台湾で活躍する台湾と日本の筑波大学の校友たちに加え、交換留学、大学院進学、GIP-TRIAD等の筑波大学の現役の学生さんおよび社会人になった修了生の皆様もご参加くださり、年齢差を超えて筑波大学の懐かしい話題仕事、研究について、くさんの交流ができました。



北部親睦會

2025年在台北市內分別於3月、7月（兩場）及9月舉辦了四場聯誼聚會。3月和9月的聚會同時也是即將調回日本的山本先生（日本航空）、因先生工作關係即將移居澳洲的北岡小姐的歡送會；7月的這一次則是歡迎來台灣出差的大庭老師，每一次都是氣氛和樂融融的歡樂相聚。

除了活躍於台灣的台日筑波大學校友之外，我們還邀請了交換留學的學生、研究所的學生、GIP-TRIAD 學程的學生等，以及已步入職場的畢業校友們一同共襄盛舉。大家跨越年齡的差距，暢談筑波大學的美好回憶，也熱烈交流工作與研究的點滴，現場話題不斷、笑聲滿滿。



南部親睦會

筑波大学の 大庭良介先生が国立成功大学で集中講義を行われる機会に合わせ、南部地区在住の台湾校友が台南市内のレストランに集まり、ささやかな懇親会を開催しました。講義や研究の話題はもちろん、日本と台湾における教育環

境の違いや学生時代の思い出話にも花が咲き、世代や専門分野を越えた和やかな交流の場となりました。久しぶりに校友同士が顔を合わせ、筑波大学とのお縁を改めて実感する、心温まるひとときでした。

南部親睦會

適逢筑波大學大庭良介老師來台，於國立成功大學進行授課之際，我們特別邀請南區的筑波大學台灣校友齊聚台南餐敘交流。席間除分享老師於成大的授課經驗與研究近況外，也聊起在筑波求學時的點

滴回憶，以及日本與台灣學術環境的差異。久違的重逢，讓校友們在輕鬆愉快的氣氛中加深彼此情誼，也再次感受到筑波大學所凝聚的深厚連結，為此次交流留下溫馨而難忘的紀錄。

筑波大学台湾オフィス便り

文●小金澤禎史（筑波大学台湾オフィス所長）

筑波大学台湾校友会の皆さまには、日頃より本学の教育・研究活動、ならびに台湾オフィスの取り組みに温かいご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。台湾において多様な分野で活躍されている校友会の皆さまの存在は、筑波大学にとって大きな誇りであり、台湾拠点の活動を支える何よりの力です。

筑波大学台湾オフィスは、台湾における本学の窓口として、大学・研究機関との交流促進、共同研究の支援、学生・研究者の人的交流を主な目的に活動しています。台湾は学術水準が高く、産業界との連携も活発であり、本学が強みとする研究分野との親和性が非常に高い地域です。こうした中、日々の業務を通じて、台湾社会の活力と国際性を強く実感しています。

近年は、台湾の大学や研究機関との交流が着実に進み、研究者同士のネットワークも広がりつつあります。さらに、「学長を囲む会in台湾」などを通して産業界との協力関係も進んできており、台湾

発の産学連携の可能性を感じさせるものとなっています。また、現在も筑波大学では多くの台湾出身の留学生が学んでおり、キャンパスの国際化に大きく貢献しています。こうした学生たちが、将来、台湾と日本を結ぶ架け橋として社会で活躍していくことを大いに期待しています。

台湾オフィスでは、校友会との連携も重要な柱と位置づけています。校友会行事や交流の場で伺う皆さまの経験談や助言は、学生支援や産学連携を考えるうえで大変貴重なものです。世代や専門分野を超えて築かれてきた台湾校友会のネットワークは、本学にとってかけがえのない財産であり、今後さらにその価値が高まっていくと感じています。

今後とも、台湾オフィスは、卒業生・在学生・教職員、そして台湾社会をつなぐ拠点として、現地に根ざした活動を続けてまいります。引き続き、台湾校友会の皆さまと力を合わせ、日台の架け橋として歩んでいければ幸いです。



筑波大学台湾辦事處

文●小金澤禎史（筑波大学台湾辦事處處長）

對於各位長期以來對本校教育與研究活動，以及台灣辦事處工作的溫暖理解與支持，我們謹致最誠摯的感謝。活躍於台灣各領域的校友們，對於筑波大學而言是極大的驕傲，也是支撐台灣據點各項活動的重要力量。

筑波大學台灣辦事處作為本校在台灣的窗口，主要致力於促進與大學及研究機構的交流、支援共同研究，以及促進學生與研究者的交流。台灣學術水準極高，產業界合作活躍，與本校擅長的研究領域高度契合。在這樣的環境中，透過日常工作，我們深刻感受到台灣社會的活力與國際性。

近年來，與台灣各大學及研究機構的交流穩定推進，研究者間的交流也逐步擴大。此外，透過「校長座談會in台灣」等活動，與產業界的合作關係也繼續深化，展現出台灣發展產學合作的可能性。目前本校有許多來自台灣的留學生，他們也對校園的國際化貢獻甚大。我們非常期待這些學生將來能成為連結台灣與日本的橋樑，在社會上發揮所長。

台灣辦事處也將與校友會的合作視為重



要支柱。在校友會活動與交流場合中，各位分享的經驗與建議，對學生支援及產學合作的思考，都具有非常珍貴的價值。跨世代、跨專業領域所建立的台灣校友會，對本校而言是不可多得的寶貴資產，我們相信其價值將在未來持續提升。

未來，台灣辦事處將持續作為連結校友、在校生、教職員及台灣社會的據點，深入紮根推展各項活動。我們也希望能持續與台灣校友會全體會員攜手合作，作為日台之間的橋樑一同前行。



台湾オフィスの活動は、以下のウェブサイトで紹介しています。

🌐 ホームページ：<http://www.global.tsukuba.ac.jp/overseas/taiwan>

📘 facebook：<https://www.facebook.com/ut.taiwan.office/>

Instagram：



台湾辦事處の各項活動，請見以下網站：

🌐 官網：<http://www.global.tsukuba.ac.jp/overseas/taiwan>

📘 臉書：<https://www.facebook.com/ut.taiwan.office/>

Instagram：



筑波大学台湾校友会規約

- 【名称】**
第1条 本会は「筑波大学台湾校友会」と称する（英語名は University of Tsukuba Taiwan Alumni Association とし、UTTAA と通称する）。
- 【趣旨】**
第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、日台両国の相互交流と友好発展に寄与することを趣旨とする。
- 【活動】**
第3条 本会は、第2条の目的を達成するため、名簿作成、校友及び筑波大学との交流協力、親睦会、その他、会員が提案する活動などを行う。
- 【会員】**
第4条 本会は、下記の該当者で構成する。
(1) 筑波大学または前身となる大学の学群・大学院の卒業・修了者
(2) 筑波大学に学位請求論文を提出し学位を認定された者
(3) 一ヶ月以上筑波大学に在籍し学習・研究等を行った者
(4) 一ヶ月以上筑波大学に滞在し教育・研究等に從事した者
(5) 本会の入会希望者は、幹事会の定めるところにより入会の申し込みを必要とする。
- 【賛助会員】**
第5条 本会の発展に多大な貢献のあった者及び本会の趣旨に賛同する者で、会長・副会長等が認める者は賛助会員となることができる。
- 【退会】**
第6条 会員は個人の事情でいつでも退会できる。
- 【総会】**
第7条
(1) 総会はすべての会員をもって構成する。
(2) 総会は次の事項について決議する。
一 会員の除名
一 会長、副会長の選任または解任
一 会則の変更
一 会計監査の承認
(3) 総会は定時総会として年1回開催するほか、必要がある場合に開催する。
(4) 総会は幹事会の決議に基づき会長が招集する。
(5) 総会の議長は会長がこれに当たる。
(6) 総会における議決権は、会員1名につき1票とする。
(7) 総会の決議は総会出席者の議決権の過半数をもって行う。
(8) 会員は代理人によってその議決権を行使することができる。
(9) 総会への発議は幹事会を通しておこなう。
(10) 総会の議事については、議事録を作成し、議長が署名押印する。
- 【役員】**
第8条
(1) 本会は役員として会長1名、副会長若干名、幹事長を置く。
(2) 本会は名誉会長、名誉副会長及び顧問を置くことができる。
(3) 会長、副会長は総会の決議によって選出する。
(4) 顧問は幹事会によって選任する。
(5) 名誉会長、名誉副会長は幹事会によって推薦され、総会の承認を持って選任する。
(6) 会長は幹事会を組織し、本会の活動を管轄する。
(7) 副会長は会長の職務を補佐し、会長が職務遂行しか

- ねるときにその職務を代行する。
(8) 会長、副会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 【幹事会及び事務局】**
第9条
(1) 本会の運営のため幹事会を置く。
(2) 幹事会の事務局を筑波大学台湾オフィスに置く。
(3) 幹事会は、会長、副会長、事務局長、副事務局長若干名および事務局員、筑波大学台湾オフィス構成員より構成される。
(4) 事務局長は、会長によって選任する。
(5) 事務局長は、副事務局長、事務局員を選任する。
(6) 幹事会は、次の活動を行う。
一 本会の活動執行の決定
一 本会の会計監査
一 事業報告書の作成
一 総会の開催
一 会員名簿の管理
一 筑波大学との連絡調整
一 会員からの意見をとりまとめ、会則、附則変更などを総会へ発議する
- 【会費】**
第10条 本会の会費は附則に定める。また、総会開催など実際の活動内容に合わせ、適宜徴収もしくは厚志を募るものとする。
- 【会計】**
第11条
(1) 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。
(2) 本会の会計は事務局にて管理し、幹事会はこれを監査し、総会の承認を得る。
(3) 本会に納められた会費および寄付は税金控除の対象とはならない。
- 【除名】**
第12条 会員が本会の目的に逸脱する行為又は本会の名誉を傷つける行為を行ったときは、幹事会の議決を経て、その資格を失う。幹事会は総会に報告する。
- 【会則の発効】**
第13条 本規約は2016年2月20日に校友会設立式で可決され、2016年2月20日より発効する。
- 【規約改正】**
第14条
(1) この会則は総会の議決によって変更することができる。
(2) 本規約の解釈権は幹事会に属する。
- 【附則の取扱い】**
第15条
(1) 本会則は会則に矛盾しない限りにおいて本会の運営のために附則を置くことができる。
(2) 附則は総会の議決によって変更することができる。
- 附則**
1 本会の最初の会長は林華章とする。
2 本会の最初の副会長は潘進丁と邱若山とする。
- 附則**
【会費】
第1条
(1) 本会の入会金を1000台湾ドルとし、入会時に一度支払うものとし、終身会員となる。

筑波大學台灣校友會章程

- 【名稱】**
第一條 本會名稱爲「筑波大學台灣校友會」（英文名稱爲 University of Tsukuba Taiwan Alumni Association，英文縮寫爲 UTTAA）。
- 【宗旨】**
第二條 本會之宗旨在於服務會員，增進會員之間的友誼，期能對台日兩國之間的國際交流有所貢獻。
- 【活動】**
第三條 本會爲達成第二條之目的，將致力於會員名冊的製作、校友間的以及與筑波大學之間的交流，舉辦聯誼會及會員提議之活動。
- 【會員】**
第四條 本會會員由以下成員組成：
(1) 在筑波大學或東京文理科學大學、東京教育大學、圖書館情報大學之大學部或研究所畢業者
(2) 向筑波大學提交論文獲得學位者
(3) 在筑波大學從事學習或研究一個月以上者
(4) 在筑波大學從事教育或研究一個月以上者
(5) 完成秘書處所訂之入會申請程序者。
- 【贊助會員】**
第五條 對本會的發展做出重大貢獻及贊同本會宗旨者，經本會會長、副會長等合議後，可成爲本會贊助會員。
- 【退會】**
第六條 會員可自主隨時退會。
- 【總會】**
第七條
(1) 總會由所有的會員所組成
(2) 總會將決議以下事項：
一 會員之除名
一 會長、副會長的選任或解任
一 會則之變更
一 會計監查之承認
(3) 總會定期一年召開一次，必要時可加開臨時會。
(4) 總會以幹事會的決議爲基礎，由會長召集。
(5) 總會的議長由會長擔任。
(6) 總會的決議權，每位會員各一票。
(7) 總會之決議須出席會員之半數以上同意始爲有效。
(8) 會員的決議權行使可委託代理人。
(9) 總會的新議題將透過幹事會提案。
(10) 總會的議事將做成會議記錄，由議長簽名蓋章。
- 【幹部】**
第八條
(1) 本會的幹部將設置會長1名、副會長若干名、並設置秘書長。
(2) 本會可設置名譽會長、名譽副會長以及顧問。
(3) 會長、副會長由總會之決議選出。
(4) 顧問由幹事會推薦聘任。
(5) 名譽會長、名譽副會長由幹事會推薦，總會認可後任之。
(6) 會長組織幹事會，並管理本會之所有活動。
(7) 副會長協助會長執行會務，於會長無法出席時，代其職務。
(8) 會長、副會長的任期二年，可連選連任。

- 【幹事會及秘書處】**
第九條
(1) 爲維持本會的營運設置幹事會。
(2) 幹事會之秘書處設置在筑波大學台灣辦事處。
(3) 幹事會由會長、副會長、秘書長、副秘書長若干名、幹部及筑波大學台灣辦事處之成員所組成。
(4) 秘書長由會長選任。
(5) 副秘書長、幹部由秘書長選任。
(6) 幹事會將執行以下之活動
一 本會活動執行之決定
一 本會之會計審查
一 事業報告書之作成
一 總會之召開
一 會員名冊的管理
一 與筑波大學之聯絡調整
一 統整會員之意見，向總會提出章程及附則變更之提案

- 【會費】**
第十條 本會之會費依附則所定。另外，配合召開總會等實際活動內容之需求，得收取費用或募捐。

- 【會計】**
第十一條
(1) 本會的會計年度，由每年的一月一日開始至十二月三十一日爲止。
(2) 本會的會計將由秘書處管理、由幹事會監督、經總會認可後向所有會員公開。
(3) 本會繳納之會費與捐款均無法提報列舉扣除稅額之用。

- 【開除】**
第十二條 違背本會宗旨或損害本會聲譽之會員，經幹事會表決通過，提交總會議決，取消其會員資格。

- 【章程的生效】**
第十三條 本章程於2016年2月20日校友會成立大會通過，自2016年2月20日起開始生效。

- 【章程修改】**
第十四條
(1) 本章程可依總會之決議而修改之。
(2) 本章程之解釋權屬於幹事會。

- 【附則之運作】**
第十五條
(1) 在不與本會則相矛盾的情況下，可依本會的營運需求，設置附則。
(2) 附則在總會決議後可變更。

- 附註**
(1) 本會最初之會長，由林華章先生擔任。
(2) 本會最初之副會長，由潘進丁及邱若山先生擔任。

- 附則**
【會費】
第一條
(1) 本會入會費爲新台幣1000元，入會時一次支付，即可成爲終身會員。

編集後記

筑波大学校友会設立の翌年に創刊した校友会会報も、おかげさまで今回第10号の刊行となりました。本号は、昨年の総会で新しく選出された郭威伯会長のご挨拶に始まり、第10回総会の報告、学長を囲む会や若手カフェ、親睦会、南部での日帰り参観といったイベント報告、校友の紹介、筑波大学に在学中の台湾人学生、張瑞雄副会長と筑波大学の大庭良介先生へのインタビュー等、盛りだくさん

の内容になっています。異なる世代、異なる分野の校友の皆様の交流の一助となりましたら幸いです。

最後になりましたが、記事の作成にご協力くださいました皆様、そしてスポンサー広告主の皆様にご心より感謝申し上げます。(編集担当 服部美貴 台湾大学日本語文学系助理教授/日本語・日本文化学類1990年卒/地域研究研究科日本語コース1996年修了)

編輯後記

筑波大學校友會成立隔年創刊の校友會會報，在各位校友的支持與愛護之下，這次也順利迎來了第十期的出版。本期內容由去年總會中新選出的郭威伯會長致詞揭開序幕，並收錄了第十屆會員大會的報告，以及「校長座談會」、「年輕人座談會」、「親睦會」、「南部一日參訪活動」等各項活動紀實。另有校友介紹、在學中的留學生心得，以及對副會長張瑞雄教授與筑波大學大

庭良介教授的訪談，內容相當豐富。若本期會報能成為不同世代、不同領域之校友彼此交流的一點助力，將感到無比欣慰。

最後，謹向協助撰文的各位人士，以及贊助本會報之廣告主，致上最誠摯的感謝。(編輯負責人 服部美貴 國立臺灣大學日本語文學系助理教授/日本語・日本文化學類1990年畢業/地域研究研究科日本語課程1996年修畢)

筑波大學台灣校友會會刊 第十期

編輯 服部美貴、林佳瑤
封面設計 曹融
發行人 郭威伯
出版人 筑波大學台灣校友會
台北市大安區長興街81號2樓 02-3366-9313
出版日期 2026年2月28日

照片拍攝地點



写真の撮影地:松美池

版權所有・翻印必究 Printed in Taiwan

廣告贊助校友：

長築實業股份有限公司 薛承哲(系統情報工學電腦科學碩士2017年畢)
安永生物科技股份有限公司 郭威伯(理工情報生命學術院 生命地球科學研究群 農學學位學程 博士2021年畢)

長築實業股份有限公司 百富非凡機電設備有限公司



塗裝設備的系統整合公司，致力於提供客戶最先進與高性價比的自動化設備代理世界知名品牌(YASKAWA 機器人, Sames、Graco、Carlisle Fluid Technologies、Asahi Sunac等塗裝設備)，亦投入自主產品研發，我們結合最新的設備並提供客戶客製化產線設計與全方位解決方案，引導客戶接軌工業4.0。

機器人塗裝



汽車-水性塗裝



自行車-粉末塗裝



縫紉機-粉末塗裝

傳統塗裝



手動靜電噴槍液體塗裝



升降機摩擦槍粉體塗裝



往復機靜電噴槍液體塗裝

新技術應用



木器研磨-力覺感知



保險桿-夾取移載



視覺辨識

總公司：新北市土城區忠承路83號9樓
電話：886-2-2268 4088 台中公司：886-4-2358 8755 台南公司：886-6-270 9257

www.bfcoating.com.tw

中國：(北京、天津、昆山、上海、東莞、廈門)、越南、印尼、泰國、印度

產地到餐桌 產銷一條龍

1 源頭

步步用心、層層把關

- 契作漁場經過至少30項查核項目
- 安永查核人員親自訪視每家漁場

2 選品

隻隻選品、火眼金睛

- 漁場職人清晨入池挑選
- 確保魚身完整、健康無破損

3 急送

限時急送、鮮美入庫

- 上岸後限時急送入庫
- 運送全程控管水質溫度

4 品檢

批批檢驗、人性管理

- 魚鮮製程通過257項查核項目
- 全程分切使用電解水清潔殺菌

5 細胞活存技術

Cells Alive System

- 運用高科技磁場與低周波技術冷凍，宛如現撈
- 高雄彌陀廠-全亞洲第一座大型CAS冷凍保管倉庫

6 鮮配

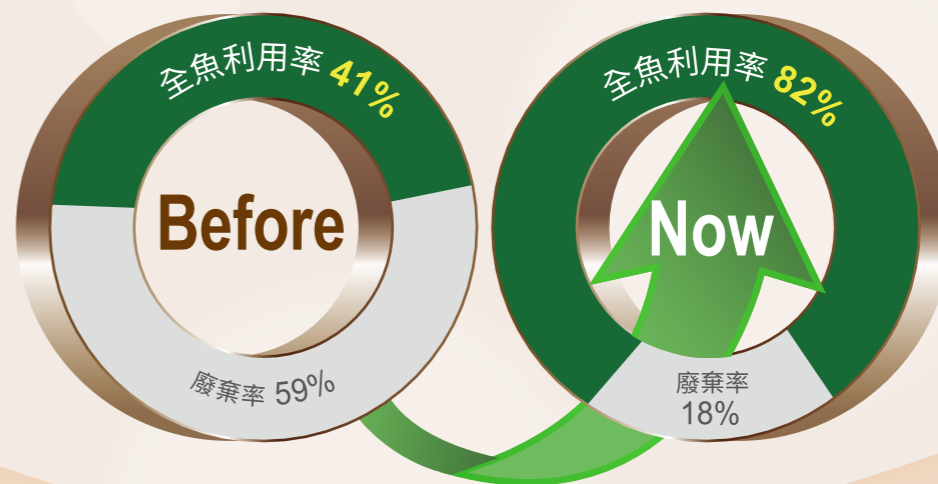
產地品質、直達餐桌

細胞活存技術
CELLS ALIVE SYSTEM
ANYO



永續經營 全魚利用

領先業界開發三項創新技術，可將鱸魚之全魚利用率由41% 提升至82%



安永分段精準
加壓萃取技術
AY-FPP



六連冠金獎鱸魚精

歷經36次試驗，調整精粹比例，打造出最佳胜肽精華與風味的「安永鱸魚精」、「安永鱸魚精(龜鹿御品)」。

安永胜肽
產製技術
AY-EE

安永寵物食品
配方技術
AY-PFF

低生態負擔 守護海洋

魚精萃取後魚副產物回收再利用，開發胜肽和寵物食品，提升全魚經濟價值，降低能源與資源消耗。

全魚利用



魚肉

魚鱗

魚骨

細胞活存技術
CELLS ALIVE SYSTEM
ANYO



頂級鮮味 直送餐桌

全國最優質安心水產，經CAS細胞活存技術冷凍加工，製成小家庭方便料理的魚片、魚排、魚丸、料理包與藥膳。



嚴選天然原料 保濕護膚

滿滿膠原蛋白，利用魚膠原胜肽開發護膚產品「安永膠原蛋白青春凍」、「膠原潤澤面膜」系列。



線上購物 anyongfresh.com